文會雜記

三

イ 5
463
32

門イ5
463
巻 73

帝國圖書館藏

文會雜記卷之二

湯元禎之祥識
男明善子誠校

是ヨリ已下モ南郭先師ノ説ナリ

一三國圖會ノ今時ハ誠ニ天地人三才アラ立ル繪図ヲ尽セリト人思ハ汐汰ノカキリナルヿ也中々造ナル書ニテハナシ大カタハ書物屋ノコシラヘタリト見立農器ノ所ハ農書ニヨリ

昭和年月日

テツヽリ合セタル物ナリ其門事長クシテアシキ所ヲハチヽメテヌキタリ具仕方散々悪シスヘテ中華ハ杜撰ヲナス人多シ書肆ナト日本人ヨリハ少文学アル色々ノ作リフヲコシラヘテ類ヨセナトヲシテ人ヲ欺クヿ多キヲソレヲ田舎料簡ニテ中華ハ何モヨキト心得テヒラ信仰ニカヽルハ沙汰ノ限ナルヿナリ

一華夏トヱ中華トヱヿ日本人ノカロトシクヱヘキ事ニ非スソレハ日本ヲ次ニシタル詞ナリソレハ南部ノ文ニハタヽ〻ニ華ト書タレトモ大カタハ華トハ書ス海外ナト書テヲケリ天ノタツル所大草千ト漢ニオクルル書ニカキタルハ誠ニ一見感アルヿナリ日本ニテモソノ如ク心得ヘキ事ナリ大カタハ天ノタツル所草千ナト書タルハ中行説カ教ナラメト思フルトナリ

一假名ノヲンナトノヽトハ子タルハ已前ニ日本ノ古府ヲセンキスル人色々説ヲイヘル中トスマス具後南都ノ宝藏ヨリメツ出シタルト覚テ種々ノ古書数部ウリニ出タルヲ今ノ傳通院ノ住持大蔵コレヲ吟味セハケツクアシカラントテ買レタル其中ニ

閑モ及ハヌ経論ナトアマタアリ其中ニ無ノ字ヲハ易ノムノ字ニテ
書写シテアリシヲソマツニ書テムト書テアリシニムノ字ノ轉
ナリト思ハル、也其書ハ古代ノ書ト見ユル物多シ孝謙天皇
時代ノ物モアリト覚ユル也珍シキヿ也ト語ラレタリ
一山海経ニハ宋ノ頃ヨリマ図ハナクナリタリコレハ図アレハ子ト
モラシキト思フ理窟アヒヨリ除タルト覚ユ然レトモ図カ
一方物ナリ渕明カ詩ニモ山海ノ図ヲヨムトヽ題アリ畫ハ張僧
繇カ書タルトヽヿ何マランニアリト覚ユ文ハ其図ノコトヽリ

書ナリ文字イカニモ古テイニテ賞翫スヘキナリ
一御即位ノ時ハ唐裳束ヲ用ラレコレハイカナルヿヤラン知ア
レモ以ヲ懸度ルニ大カタハ唐ヨリ日本王ニ冊封ノ装束ヲ贈リ
タル故ソレヲモチイラル、カ何トヤラン外閑ヨカラス覚
ル也外國ノ王ハ諸侯王ノ上ニテ天子ヨリサシクタリテ龍
ノ文ナリサシ違ナリソレユヘニ世ニ傳ラレタルカ又此方ヨリハ
元来中國ヲ外國トアシラフヘキ事也田舍物スキニテ京
ノ人ハ何ヿモヨカラントト思フヨウニ中華ナレハ何ヿモヨカラン

ト思フ学者ノ上ニ多クセリ水戸ノ義公ノ唐ヲ外夷傳ニ五
ラレタルハ誠ノ一見識ト云ヘキナリスヘテ日本ニ唐ヨリ増シ
タルヿイクホトモアリソレノ学者ノ知ラヌモ口惜キヿナラ
スヤ百王一姓ヲ中國ニテモ驚タルヿアリト覚ユシタルニ春
齊ノ本朝通鑑ヲ編レシニ其ノ太伯ノ後ナリトイフ説ヲ
載セラレタルノ由刊行ニナルヘキトテ京師ヘ見セニユキタル時
公家衆ヨリサットアリテ刊行ニモナラスト也本朝通鑑
ハ其時ノ御老中酒井雅樂乃殿ナトノ世話ニテ撰レ
タラハ然ルヘシトテ諸生ヲアツメ公儀ヨリ二百口ノ俸米下
サル今ニ其俸米林家ニノコルトナリ通鑑ハ綱ヲ立目ヘハ假
名ノ書ヲモツレナリニ書出シテアリト例タルト語ラレキ
一南部本多伊与寺殿ニ致仕シテウキスノ別業ニ居ラレ
ケルニ招シテ庭ノ池ヲ見廻リテ詠セラレシ歌ニ
静かなる池の面をながめては[illegible]
一方以智力通雅隨公声ニテ通スルヿナトヲ能クセンキセ
リ珍ラシキ博天家ナリ但中華ノ形容字ハ声ニテ云テ文ニ

カクトキハ字ヲコシラヘルナリ犬ノワンニトナリナトヲエノ字
ニテモワントヱ字ニテ先書ス置マウノ事アリソレユヘカドニ
テ字ヲウヘル也俗語ニハ猶以テ其マウノ多キナリ俗語ノ声
ハカリニテ通用シテ華ニロクトキハ字ヲツクルナリ韻鏡ハ
シツタンノ為ニマシテヘタル物ナリ外國ノ二合三合ノ音ニテ
字ヲ合セテ一字トスタトヘハ観世音トヱカ如シ三字
ナレハ一字ニテスハヨフニスル是外國音切ノ学盛ナルユヘ
中國ノ声音ヲハセマシキトシテ韻鏡トヱモノ出来

タリ字音ヲクワシク吟味スル梅説生ナトカ如キ人ハ
用ヰルモアルヘシ日本ノ人ノ韻鏡ノセンキ誠ニヲカシキ
事ナリ今ハ各家字ヲカヘスヲ為ノ人用ニナリタルハ倍ナル
事論ニモ及スヿナリ但二字ヲ一見ニスルトキ中牽ニモアルヿ
ナリ虚出閉ノ事。。ノ二字ヲカヘシテ出閉ニナルトヱ
事小説ニ見ヘタルハ今ノ各家字ヲカヘスニ似タル事モアル
ヿニハアル也

一程子ノ学ヲ土木偶トソシルヿ阮詰偶問ニ載タリト也

一六國ノ後慥ナル紀録ナシ帝紀ハ景況物借ト三鏡ニルヨリ外ノ仕方ナシ義公ノ大日本史モ此通リノナバキナリト例タリト也

一日本ニテ延喜天暦ノ聖代トニ丁其時ノ文人ノニ出シタル事ナルヘシ二代サマルヨキ政モナケレ氏其時ナルホト帝室ノ文物ハ盛ナル故ナリ

一日本ニテ古ヘ学窟ニテニナラハシタル詞アリト覚ユ洎氏物語タギリノ大将ノ及第ノ時ナトニテ考ヘラルヽアリ

ソレノミナラス日本ノ昔ハ講ナトノ時ノ物イヒナシ永クフシヲツケテ日本ノ詞ノ俗ノ中ノ女例ヨクシタルト覚ユ其事今ノ天台宗ナトニ古風ハ残リテアル也

一中華ニテ佛家ニ宗門トニ事ナシ禅教律戒ナトニツニ分レタレ氏禅ニテ念佛ヲニ律ニテ禅学ヲモ兼タル也宋ノ時代ヨリ禅甚盛行ノ教ハクヅツキタルモノヽヤウニテ大ウタスタレタルヤウニナリ日本ノ宗門ニルニモ二百年前ハナキ事ナリ切支丹宗ノ制禁ヨリ事

起リタルト覚ユ長崎奉行文盲ニテアキナイニ来ル唐人ニ
宗旨ヲ書出セヨトニヲ宗旨ナケレハ何ニテモ信スル
佛ヲ書出セトニ付テル、ニヨリ観音ヲ書付テ出ストキ
クヲカシキ事ヨト語ラレキ

一日本ノ事藤原氏権ヲホシヒマニセラル、事ヲ　後三條ナト
甚怒リ思召シテ其権ヲウバヒ玉ヒ宇治関白ナソモ引込レ
タルナリ　サレトモ此事ヲ思フニ今ノ時ノ大商家ノ
子代ヲヲモニナリテ家ヲ持ヲル主人ヲヒキウハヒテ結
句家ヲ持トスルニナルヿヤリトカノ藤原氏ノセノ宰
相人服シタルヽ人服スルトニヿ大事ノコト也

一日本ニテハ百王一姓トカノ日本ノ外國ヲハ夷秋ト云ヘキ
事ナリコレ春秋ノ意モチナリ学有ノコレニ気ノ付スハ
大ニ無念ナルヿ又百姓一王ニ人心服シテヲル上ハ簒奪
ヲ行フヿナラヌナリコレ外國ヨリ日本ノ人實気ナル
所ナリ

一但来明律ヲ解セラレタル時芳叔達ヒタト

御城ヘ召テ律ノ事御尋アリタル故横恐ニシテ懐中セラレタルカヤリ少々叙達ノマシラフモアリソレヲ何ニカコシラヘテニセ物シテノ外ヘ出シタルシソレニセモノハ少部ナリトナリ

一八種畫譜ハ至テ佳ナル繪評ナルニ足ラス笠翁畫傳モ今日本ニテハ町繪ノ中ニヨキ繪ニテハナシ書論ハ律逮秘書ノ中ニヨホトアリソレヲヨミテ見レハ大ニコトナルナリ雪舟古法眼ハ誠ニ唐流ノ繪ナリ席繪トハ中華ニテキ事ナリ五日一水十日一山ナトカラノ人ハ云テ大事ニカケテ繪ヲカク事也

一日本人ノ古ヘ筆蹟ハ晋人ノニセテソレヲカナニヒキウツシタル故假名マテモ見事ナリ

一千鱗ハ扯書ナルトハ八種畫譜ニアルモツクリモノアル洞巖ヨリ但來ヘ直蹟ヲ贈物ニシタル弁州ノ手又椅蘭侯ノ所ニ王元美カ手跡アリイカニモ見事ニハナキ物烏石ハ前々タ廬澤ノ芳子ニテ文徵明ノ子タリ

其後古法帖ノ見テ書カヘタルモ文微明ノ風ヲケスト
カリ楷書ハナルホトヨク書ト覚タリ

一宇治拾遺ハ真ノ書ニアラシ宇治ハ関白殿ヨリ後ノ事モアリ

一高ミノラノ側ニシマレカウヘアリテサハカシウノ法楽公ノ事ハ
太鏡ニ見ヘタリトモ江談ナト寫本見坪モナキ事カ
ト見タリ其後羽倉爵宮カ改タルノ借ヨセテ世話ノ
着セシ時ニ書出シタルトナリ

一越絶書ハ子貢トニトモ心得カタシ但大カタハ前漢ノ人
カ秦人ノ作ルナルヘシイカニモ文古メキタリ呉越春秋
ハ後漢ノ作ニヘイカニモワカク讀マスキアリ

一埘埘代酔ハ大ニ心得ラレ又書ナリ方以智カ通雅ニ博大
家ノ書ヲヒカストニフナキニ代酔トニ名モ出サズサテ
又大カタハ揚昇菴カ丹鉛總録又ハ外集ナトヲ一ルト
ト出シテ張晴思カ料簡ニシテサハキテアリタレカ
コシラヘタルナルヘシ代酔ニワツカ斗リアリ作リタル人
タルナラントト語ラレキ

一捜神記漢魏叢書ニアルト津逮秘書ニアルトハ大ニ異ナル物ナリコノマウナル丁中華ニハ多キ丁ナリ

一事纂トニ物六國史類聚國史ヨリヌキ出シテ部類ノ合セキリタシテヨホトアリ御猟本ノウチヨリ献上セラルヽノ件稿ヲ見テ世語ノ中書出セルモアリトナリ

一唐ノ六典ハ甚不自由ノ書ナリ近衛関白殿刊行成サレ諸侯ヘ贈物ニ成サルヽタルヲ不日ラヲ見エフトカタラレキ

一紀人龍門（俗称宮瀬三石工門）ノ丁ノ尋ルニ成ホト芙蕖館ヘモ来リタル人ナリ甚浮薄ナル人物ユヘヨセスト語ラレシトナリ

一徂来学ニテ世間一変スト然トモ徂来一間ハ人半信半疑ヲ今ノ世文物ノ開キタルヲ見セマセバサゾ悦ナルラメ但今ノ時復古トニフ誹諧ニマテ生サテヽ復古ニ関アヤタルヽ人ノハメキ・サハラマテ狂序ノ世ノ中ノ丁ナリ

一切支丹宗門ニ宗代ニテヨウト似タル事ハ魔トニモノアリトニ抄出ノ書ヲ見セテル

一周南ノ侍ハハマサヲト校シテヤリタリ四巻アリ文ヨホト
アリナカキウテ来ルヘシシテヘテヤリテ大坂ニノ彫ルナリ
序ヲ書スハ成マシト語タマヘリ
一春秋繁露ナト古書ナルユヘホリキリアリテヨメヌ所
モアルナリ墨子ナトモ真贋大カタマシハリタラント
思ハルヽトナリ
一礼伐ノ類典出来テ近衛殿ホシロリタマヘトモ義公ト
ハ不通ナリ其故ハ義公ノ嗣綱條卿ノ夫人ニ近衛公ノ
女ノ御モライ成サレ度トアリケルニ関東ヘハ遣サルマシキ
由ニテ其後
文庫イマタ櫻田ニアハシマス頃要ラセタマフ故義公怒リテ
不通ナリ近衛公江戸ニ下ラセタマヒテ　文庫ヘ仰ラレ
文庫ヨリ水戸ヘ命ラレ江戸ヘ礼類典献セラレシ家中ノ若
キ士マテ集リテ書写五百巻出来テ献上ナリ水戸ニテハ腹
ヲ立メルトナリソレヲ近衛公トリテ京ニ帰ラセタマフト
ナリ

一延喜式ハ開元式ニヨリテ出来タルナリ唐律ハ唐本ニテ
ナリ鳴本ニテ傳タリトナリ
一文選纂注ハ張風翼ナリキ」イナル本ニ今ノタヽクサナル本
ハニセモ也トナリ
一十三家ノ事徂来ノ物語マテナリ李陽冰ノ文ノ中ニモ見
ヘス弇州文ノ中ニモ其事ナシト覚エ李氷ノ集ニヱタル
モ惡ナラス大泌山房集弇州文ヲ下クラヒヤワラカ
ニ書タル物ナリト也

一上様トヱ詞平安ニテハ上代ヨリ天子ヲサス詞ナリ
一憲廟ノ御時両上様御機嫌宜ト京都ヘヱヤラレタル文章
アリヤ京都ヨリトカクノ両上様トハ當今ト院御所
ノ御事ナリヤ合点エカヌストヱ来ルヲ憲廟モ例石今
ヨリ左様ナル事ヱヤルナト
御意アリヤメニナリタリ
上ト公方ノ」ヲヱ尤廣クサス詞ナレモ書ニクキ事ナリ公
上トヱロタヤシナランカト覚エスヘテ制度官名叙事ノ
体ニトウモ書レスヿ多シ修飾シタル文ナラハ官名ナトモ

古キ名ヲ出シテモヨカルヘキニ叙事ノ体ナラハ實録ノ
本意ヲ失フト故書ニクキ事ナリ
一学文ハツミ置テ發明スルカヨシ但来ノ学問ナトツミ置テ
發明セラルヽナリ
一日本帝室ノ衰タルヿヲ書タルモノニ水記トヱモノアリト
聞ク未タ見スト語ラレキ
一谷響集トヱ物日本ノ僧ノ書タル物ナリ集氏集来マ
徐氏筆精ノ類ナリ黄蘗ノ悅山ナトヘ見テモライタルト
ナリ悅山ハ不学ノ人シワレモ田舍料簡デ学ヒタルトナリナ
バキタルヿノ文字甚忠シキナリ
一三種ノ神器ノ事色ニヽヱト見ヘタリ先ハコレモ秦ノ始皇ノ和
璧璽斬蛇劍ヲ代々傳ヘタルト擬セラレタルト覚ユ小説ノ中ニ
傳國ノ璽ノヿノ随分ニ書ツケタルカアルトモ
一史記ハ前ニモヱ通リ未定ノ書ナリタヽ弁ニ古キ紀録ヲトリア
ツメテ未ソロヘヌ所カ今ノ世ヨリ見レハ結句古テニ見ユ
倉公醫集ナト倉公学問アルヘキ人ニモアラスソレヲサシハ司

馬氏カ取ツクロヒタルナラントト思ル今ノ世ヨリ見レハ大ニ奇
古ナルヿナリ

一説郛東トニモノアリ説郛ノ抜書ナリ何ノ用ニモタヽ
マモノ也

一宗ノ諸君子ノ手跡ハ大カタ器ニテ賞翫スルト見ヘタリ
山谷ナトハ手ニモ骨折タルト見ヘタリ但未ハ至テ悪筆
ナレトモ気象ニテアノ如ク書出サレタリ定家ヲ悪筆ト
古来ヨリニリイカニモ如此ウツケテ書テ早書焉セラレタル

所ヨリ定家流トニ一流ノ悪筆カ出来タリコレモ哥学
ニテ人ノ賞翫スルナリ東涯手跡ハ甚ヨシトオメラレタリ
一不分ナリトニ倍語ハ六朝ニモアリ杜詩ニ多ク倍語ヲツカイ
タリ今ノ子家注先ヨキナリ看他世上人ナト倍語ナリ
自他ノ他ニアラス コノ詩ニテハ自他ノ他ト見テモツウス外ノ所
ニテハ大カタカクトニ詞ニアテヽヨク閑ニ九ナリ
一博太ト著述ト兼タルハ元美一人ナルヘシトナリ
一唐書モ字甚ワルシ此度利行ハ庄藏ノ校合ニヘヨカルヘシト

云ヘキ

一慧琳カ一切経音義百巻ナリ其中ニヲヒタヽシク字書ノ引タリ隨唐ノ藝文志ニ引合セテ見ルニ文志ニナキ書甚タ多シ然レハ中華ニモ字書大分ヒタリト覚ルトナリ

一百川学海ノ廿歳斗リノ時見タリ其後書出シテ置トハ分カリシト思フテ後悔ルコト多シテ其後ハ珍シキ書ヲ見ル度コトニ色々ノコトヲ抄出シ唐宋叢書説郛續ナト片シニ讀テ抄出シタルトテノ類分ニシタル抄書十冊分リ出サル名鬼神文詩事雑ナト類ヲ分タリコレハ手前ノ覚ヘシタルヿヘ人ノ用ニハ曽テタヽス決テ人ニモ見セヌナリ没後ニ大中セヨトロタクヲ付テ置トナリ此外ニハ何ニモ著述ナキト語ラレキ則此書ハ遺契也

一大東ノ世話ハ元来假名書ヲ見タル時抄出シスルニ直テ良文ニシテ書出シ置タルナリソレヲ又増補シトリ合セテ書タリ長押不ナトナリシヤハリ日本ノ詞ナリ資朝ノ春。ハ方ニテ移車ナト云ハ石タヽノ下ニ車ヲツケヒキアルクト見ヘ

タリソレニヘト書タリ

一文選ノ李善注モ字カ甚悪シニ校アリシトアリ

一玉ノ丁今水晶ハスルトキ色ナリ玉ハ今少シタルニテ成ホト濫淫ナルモノナリ今モ出ルナリ見知ル人ナキ欤ト思ハルヽナリ

一論語徴集覧モ未成年中ナトハ刊出来ヘキカデキタラハ書林ヘ渡シテ世上ヘモヒロメ世ノ人ノタメニモスヘキト心ナリ

一滄溟詩ニモスマヌ詩アリトカクセ子ナトノケウガイ出合ノ様子クワシク知レ子ハ推量スマシキ事ナリ

一七経孟子考文モ必アノ通ノ文字ノコラスヨキニテモナキトナリ

一ウツホ物語ナト盗刊ト見ヘタリ子共ノ玩フ利蓬ノ文字モツヽナリソレヨリ後ハ錯簡一向次第ツヽカスコレハ大和トケヲ切分ケテ急速ニ寫シタルニヘ次第カ散ヽナリタルランナリ

一日本律ハ山田大助ノ文ノモトニアリテ

有德院殿ノトキ献上アリシノ時世俗ナトシテチヨト本カラ
ヲ見タルトモ

一古。丁小説ニテ見タルヤ得思ヒ出サス宋人ノ語ニ古人ノ
左氏馬氏荘氏屈氏シハシノ人ナリ左氏ハ言人荘氏
ハ言元ナトニ評判アリタルト覚ルナリ

一鹽鉄論漢ノ文ニテ成ホトヨシ経本ノ丁ニ文ノ書カタモ
其用ヲタツスル為三位易ニ書タル物ナリトシ

一管子ニアル地理ノ事ニアノナノ丁其地代ニ一種ハヤリタル丁
アリタリト覚ルトナリ

一副墨ハ伯玉カ自分ノ撰ニ先ツヨキ方ナリトモ

一講ト云丁ナラハスト云心ニテ昔六朝アタリノハ今ノ講書
ノトハ違フナリ邑々ノ役人アリテ講ナトハ讀アケル役
人ナリ天台ナトニ法華ハ講ノ古風ノコリアルモ今ノ講
書ト云丁ハ宋ヨリ始リ講釈ト云字ハ成ホト六朝ニモア
ルトテ杪書中ヨリ出シテ見セタマヘリ

一三浦ヘ十日アマリ遊タリヨホト絶句作リトテ見セタ

マエリ

一平家物語ハ日本ノ文業ノ中ニテイカニモ古文ナルモノナリヨクヱトリタルモノ譬ハ清盛ノ怒ラレタル体ナト見ルマウニ書タリ中々及カタキ假名文章ナリトナリ

一日本ニテ近頃ハ文化ハヤリタル故唐流ノ画モ少シハヤリ出シタトモトカク明画ヲ目當ニカリナリ明ハ画ハアシ、安シク八画論ニテヲスヘキ事也

一三教一致ト云フ明朝ニテ一宗ヱ出シテ是モ又切支丹ノコトシ其書ノ見シニ道ハモト老子ヨリ出タレトモ李伯陽カ參ノ同契ヨリ一致トヱ儒モ周茂叔ヨリシテヒキ合テ建ヱナリ佛ハ金剛経ナトヲ引ケリコレニモ経ニハ天帝ノ側ヘ帰ヤトタテタル宗旨ナリソレヱヘ明朝ニテモ後ニハ殊ノ外制禁ツヨクナリタリ宗世ニハ色々ノ事ハヤリ出スモノナリ

一漢魏叢書モダンヽゾキツトシタル人ノ定メタルトモ多ヘヘス大カタ書物屋ノコシラヘカ文字甚悪シキ物ナリ不残一覧シタレトモシラフヘキヤウモナキトナリ唐宋叢書モ

同シ事ナリ

一莊子郭ノ注唐ノ玄英トモモノ疏ヲ作道士トモ僧トモ云
庫ニ殊勝ナルヿモアレトモ埒モナキヿナリ

一経学漢儒ニタヨラ子ハ訓詁々ヾサテ人サシヽ埒モナキ怪
アリ六朝ハ学有ノ肝心至極ノ物ナレトモ中ヽ一ツモスミカタ
シ書経ハヨメニクヽ合点ユク処サナラテナシ孔安国ノ注モ
アノ通ニテスマスヘキトモ思ハレストシ

一子共ヲ教ルニ素儲サスル時アトヲサラワルヿ成ホトヨケレ
ハ向ヘスヽマ子ハタイクツスルモノシ我等ナトモ十二三歳ノ時
親カ三體詩ヲ教ヘタルニ透ト忘レタリ其後又ツヽヽ覚
ヘタルト諸メマエリ

一春夜宴九岐侯惜賞館　南郭

春天花月夜候館苑牆隅相得風流會
無非惜賞心林光侵彖燭水響入彈琴擊坊城門遠方
驚密坐深
此一牧先師クレラレタリ

一東叡王（隨意院宮）ノ諸侯大夫、某別テ懇意ニテ著述モナル人ナリ京ヘヒタト御使ニモユキ御供ヲモシタリ京ニテハ日華門月華門ヲ始メ文字ノ宜キ所アリ方跡モキハメテ風雅ニテ名モ皆面白ニ公家衆詩ヲ作ルスヘヲ知リ玉ハス江戸ノ地名ハ雅ナラスニ詩人ヲ作リタルカトテワラヘリト語ラレキ

一南郭ノ僕平田十太ト云ヘリ親ノ養ノ為トテサシ文学ヲシリ細ユモ能テ正面ヲ折碑ヲスル一ツハ満地ノ金銀百尺臺ノ詩一ツハ春眠無容至ノ五絶ナリ

一畢竟宗学ハ一種ノ学問ナリソレユヘ我ハ折理家ト名ツケタルト

一学有ノ料簡ハ出テ國ヲ治メハカマウトニスヘキナトニテノ方ノ理窟ノ心ニ持テ時勢ヲモ不知大ロタハ出テ経済ノ語国ノ罪ヲ得ヘキモノナリソレユヘ米ノ丁ノ文ヲ書テタノヘシト思ヒタレトモ又思フニ左マウニ書タレハトテ用ユヘキニ非ス又書タレハトテ用ラレヌハ天ナレハ無益ナ

リト思テ文ニモ作ラス大カタ今ノ学者ハ紙上ノ空談ノ
山川ヲアリキタルヿモ無ク民ノ情合ヲモ知ラテ人ヲ治メン
ト思ハカヽシキヿヽト語ラレキ
一今ノ人名ヲムサホリテ南郭ニ逢タル又ハ南郭ニ詩ヲ見
セクレハホメラレタルトテソレヲ名図ニスルサテトカマヘノ
サキヿナリ学問ハ古人ヲ目アテニシ千載ノ後ノ知己ヲ
待ツ心ナラテハナラヌ事ナリト也
一公方ノヿヲ如何書ヘキヤト西臺候カ何マラン文ヲ捧テ
レタル時問レシ故左マウノ時ナラハ書経ノ例ニテ吾后ト
書テマキラカスヘキカトエリアノ方ニ正名ニ書レス時ハ
マキラカシニシタル事アリトナリ
一揚升菴外集モ考古ノヿハカリナリスヘテ升菴ハメツタ
ニ奇僻ヲ撰ルヿスキナリ扁舟ナト遠キ登ヲ出セリ近
ク史記ニ出タルヿヲモ忘レタルカラカシキヿ也
一古ヘ三代ノ時ノヿ疑ヘキヿイクハクトエヿヲ知ラス井田モ
残ラスシタルシカラシ井田ニナラヌ所イカホトモアルヘシ

ソレヲハ大カタ井田ノナラシノワリ合ノシカタアルヘキ
ヤリ左傳ニ井トーヲトニナリ

一莊子諫ノ校正ノ楚辭ノ吐ヲリ校合甚恵シ子諫イソカ
シノテ門人トモ寄集リテ校シタルユヘカトカク精密
ナル学問ヲクナケカハシキ丁ナリト語ラレキ

一制度ヲ考ルハ杜子通典ヨシ詳カ考ルナラハ文獻通考
ヨリ外ハナシト也

一顔魯公ノ手跡ハ人ロラノ通リスルトキ手ナリ

一徂来ノ書ハモハヤ刊ニハ先ツ出スマシキナリ未定ノ書ニ
テ書チラシテアリ筆マメニ大ク書カケテアレトモシラ
ヘカタキシトナリ

一徂来モ仁トニサハキニハ心ヲ用ラレメル丁ナリ義トニハ
聖人ノ丁ノサハキモフソレヲカ子ニスルヲ我トニト但来ハ
サハキタリ

一大テイ宋ヨリ已後韓柳歐蘇ト四家文章ノ手本ニナ
リタリ

後世少ク拾フカヘテノカケル李ナトカ如キニ変スルヿ
ナラス大カタハ韓ヲ学タルモノナリ東坡カ文才モ誠絶
論ナル上ヘ當世ニ大カタ ナラズモテハヤサレタリ 借残公
カ何マラン 訟ノアル時行ヒ マケニテ大分銭ヲ出サ子ハ
ナラヌヿヲ東坡カサハキシニ其事ノ判断ハセスシテ紙
アツメ筆ヲトリテ物ヲ書テヤリタレハソレヲ買ヒモノ辭
聚メ少間ニコレホトノ銭カ出来テ其公事止タルトエフ
小説ノ中ニテ見ラレタルトモ也

一會業ト云事中国ニモアリテナルホト會業ノ引ト云文
ヲ見ルトナリ

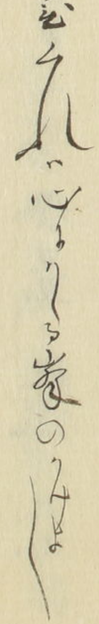
一南郭ノ書物外題ニ内ノ小ワリ残ラス書ツケ[印]コノ処
ニモ部ノワケ書出シ考ル時引出シ易キヤウニシタリ
ツクエノツキニヨマ本ノ書タナアリ高サ三尺バカリ上ハセラキ
戸ニシタリ下ハヒキ戸ニシテアリ

已上十月十日巣鶴ヘユキタル時南郭ノ話ナリ 猶数
十條アリ思ヒ出次第書付ヘシ

一紙寛トニテ世語ニ書タリコレハ中華ニモアリテ詩ナトシ
梅花透紙寛ト見ヘタリ故ニ肩タルト南郭ノ玉ヘリ
一見トニ睛トニ觀トニ類同訓ニテ異義ノ字是タタシエ
レライロハ久テニシテ古人ノ用タル句ソレニ注シテ字義
ヲ知ルヘキ為ニシカケタルト老師ニ吐タレハ成ホト尤ナリ
和訓ニトリツケハ迷サル、ホトニ書ヲ見ル度ニ書出シテ
置タルカイカニモヨキ用心ナリト南郭ノ玉ヘリ
一十一月二十九日東禪寺行香ノモトリ芙蕖館ニユキテ
謁ス南郭ニ會礼記郊性マテスミタルトナリ新注ハカナ
書ノコトクナル由ヲニタルニ南郭ニナルホト其通リナ
リ但新注ニモヨキヿアリステラレヌナリ孔頴達隨分
說タレトアマリグツヽキテ愚癡ナル所アリ大テイ唐
ノ初ノ学問六朝ヨリモ下迄テアノ通ナリスヘテ六朝ニア
マリヨキ学者ナシト語ラレキ
一南郭ニ晉ノ玄談ノ人侍ノ上手ナシ許玄度ナト侍坪モ
ナキナリ慧遠ノ侍ハ中々面白シ其節左家ノ人ノ及カタ

キヽナリ宋已来待僧ナシ唐ノ九僧ナト名高ケレトモ
中々日本ノ万菴ニ及ハスナリ又明ニハ此所落ナト思ハル
文章不接ト旧事紀トヲ引合セテサマ〳〵ニ疑フツケテ
色々細注ナトアリ藩譜史疑トモ白石ノ著述ナリ
一宝暦四年二月十三日 君修来訪君修云扶桑隠逸傳ノ
讀テ見タルニ殊ノ外文面白シ和歌ノ書ナト大分読タ
ルト見ヘタリ深州ノ元政ハ師匠アリテ人ニ生タル如
来ノ如ク思ヒテ熊澤大夫ノ書ニモ見ヘタリ子亮亘都

メクリシテ深州ヘユキテ元政菴室ノアトヲ見タルヿアリ
折フシ制帳ニテ元政ノシキ筆ノ和歌ヲケモノニシテア
リシヲ見タル



一黄勉斎ノ編シ喪祭通解ト云モノ宋板ニテ松平備前守殿
ノ方ニアリシ子迪南郭方ニテ伐礼會讀ノ時ヲラレタ
ルト也又君修云古人ノ礼家二十八人ノ説ヒトツニ集置タル
ト朱子ノ倍類ニ見ヘタルト也

一日本ニテ國初ヨリ来経済ヲ云人熊沢白石但来春臺四家
ヤリ白石ハトカク江戸ヲ禁裏ノ如クスルツモリノヤウニ
見立武士トヽ事キライナリ武備立ルモタルハ乱起ルヘシ
然ハ唯止名トヽハカリテ経済ハ次ナルヘシ熊澤ノ経済ハ
革命ノ時ナラヌハ用ヲタメカルベシ春臺ノ経済モ只今ノ
通リニテ少宦名ナトヲツケ官服ヲコシラヘルマテノヿト見
ヘテハキトシタルヿモ見立又但来ノ政談モトカク今ノ上
ニテ少ツヽ端ハソレノ直スヿ故本ノ経済ニハアラシ但

有德院殿ノ御サバキ成サルヘキ事ヲ許リテ書上タルナ
ラン欲ヲヿヽトカク政談ノ通リ旅住居ヲ止ントナラハ
諸侯ノ參勤ノ止人質カヘシ大名ノ國ノ根本ナルヿヲ
知ラセサレハ旅住居トヽヿヽ止ムベカラス居住ヽ大名ノ國
ニカヘスヿ　徳川家ノキライノヤウニ覚ユトニカク江
戸ノ人ノスクヨウニノ江戸ヘ人ノ集ルヤウニスルヿ
徳川家ノ物スキト見ヘタリ但来モソコラ積リヲヽヽレ
タカ又但来モ大名ノイヤカリテトカク大名ヲ三十万石ヲ

大身トスルヿ大名ヲ恐レタル心ナラメヌ云但来ニ今ノ大
名ノ内行不修不埒ナルヿトモキツト叱リカタシ万事テ
ノマハル身上ニテ何モスルヿナケレハ悪シキ事ヲセヌハナラ
ヌ勢ヒヿ大名ニ何ニテモスル業ヲコシラヘテアテカフナリ
トナリ

一白石ハ我ノツヨキ人カ　文庫床ノ甲府殿ト申セシ時
拙物ノ繪ニ賛アリ　御吟味ニテ白石ノ考ニ明西ナリトヘ
養朴カキハメニ宋画ナリトナリ白石ソレヲ甚不快ニ思ハ

レタリ二十ヨ年ノ後朝鮮来聘ハ時養朴屏風ヲ書
タルニ

一倫院卿前ニテ清ヲ納言篇ヲ悉ク所ヲ書タルニ雪
フリ埋ミタルニ斬ノ所雪スクナシト白石評判ナリ類朴
云イカニモ左マウナレヒ斬ノ所ニテ禁裏トヿヲ知ラ
セ申ヿ繪ノ古傳ナリト云白石ソレハ傳受ノヿハイ
ハレマシ人ノ笑ヲウクヘシトテ書直サセテ二十餘年ノ不
快ヲハラシタリトヿレシ申左スレハ白石ハ人品ハ如何ト

ヘタリト君修語ラレシノ

一君修云明人ノ明末ノ学問ハ大ニ一風アリ大抵王陽明李

夢陽升菴三人ノ学問ヲコ子合セタルマノ也陽明ノ心学ニテ

朱子ヲソシリ李夢陽ニテ宋文ヲソシリ陽升菴ハ奇

ナカノ考ニテ宋儒ヲソシリタルヲヒトツニシタルマウナリ

然トモ宋学ヲウチ破リタル見識ノ学問ハナキ也

一君修云本朝文粹ヲ見レハ二朝ノ四六ノ脉中々マワラ

カナル書手アリソノ後文運クラマニハ論ニ及ハス国初已

來モ叙事議論ノ脉ハ悉ナシ徠翁已来叙事淺論ノ脉ハキト

分リテ叙事ノ脉モ備リ仁斎ノ叙事至極ノ下チ東匡

モ其通ナリ湖亭陸筆ニテ見ハ叙事モ書シタルトハ見

レモ如何アルヘキト也

一君修云トカク諸子ノ中ニテ文章モスクレ議論モトカクニ

レヌハ孟子一人ナルヘシト也

一君修云三勇傳ハ板行シタキナリ正言モ板行シタキ

ナリ又量ノ門人ニテハ十ノ心安キ人内藤君房日本ノ叙事

ラカヽレタル殊ノ外ヨキ文ナリト春臺モ云シタル由其時
君修未幼少ニテ其文ヲハ見サリシト也
一君修ニ武德編年集成モ近頃ハ樋口弥門方ニ出テアリ
トナリ經邦礼典ノ丁弥門方ニ別合タルニ知ラストニヘリ
一君修ニ韓退之詩ハ下ナリ柳文ハ封建論ノ外左ノミ見
識サキニヘ面白カラス明文奇賞ヲ見ルニ明ノ劉基ナトス
ラヽシタル文ナリ日本ニハアノヨウニスラヽシタル文ヲヨク人
ナシ

一君修ニ白石ノ采覧異言殊ノ外ヨキ文ナリト春臺ホ
メラレタルナリ
一君修ニ板美仲カ母ノ行状ヲ書タル文ヲ見ルニトカク文ハ
上手ナリトナリ
一君修云徂来ノ著書ハ皆ナクテ叶ハヌ書ナリ春臺東涯
ノ作ヲハ無用ノモノナリト思ハルヽト也
一君修ニ春臺ハトカク今ノ江戸ノ草舍トニテ山城ヲ勝
国ノアヒシラヒ也キコヘヌコトト也又　憲廟ヲソシリテ

文庙ヲホノラル徠翁ハ　憲庙ヲオトセル也但シ　文庙御
忌中ニ馬ノクヒモ生類イタクワリノ丁御免ハアマリナル丁歟
一松平紀伊守殿　間部越前守殿ノ権ヲヲサヘラレタリ又
有徳庙ヨリ内官ノ権ハ盛ニヤリタリ又牧野備後守殿加納殿
ノ権ヲキヒシノ押ラレタリ然レトモ次第ニ内官ノ権ソヨク
ヤリタリ中國ノ宦官ノアリサマヤリト君修語レリ
一國初ハ文盲沙汰ノ限リナル丁ニテ水野明卿ノ咄シニ酒井
左エ門尉殿先祖ヲ國ヲ書出シノ時一家中ニソレヲ書人ナ
クテ系図ヲクリヲマトヒテ書出セリ今ハ違モアレ氏モハヤ
公儀ヘ出タルモノ故取リカヘシテノ書改ル丁モヤラスト語ラレリ
一孔子ノ廟ノ國ヲ名ト仰ラレタル丁ヲレハ自分ニヒキウケ
テ御身ノ上ナラス名ヲ正ス伯夷叔齊ナトノ如ク成カルヘ
キマウモナシ其國ノ君ヲシノケモナルマシマ衛ノ君ヲハ
タスケントヲ丁論語ニ見ヘタリ伯夷ノ通リナル人ニ伯夷
叔齊ノ丁モ今ノ世ヨリ見レハ其身ノリハツミアトノ國
ノツフルヽトヲモノヽ然トモ父子兄弟ノ幸ノ場ニナラハアト

ノツフレニモカマハズ自分一身ノリツハヲシテ名ヲ正シクスベキカト君脩云ヘリ

一子綽ノ文ハトカク李キ鬷カ休ヲマヽ子タル故一家ヲ立テタレモツクヱハナレカセストモ云心アルヘシト君修云ヘリ

一稲葉石見守殿ハ仁斎ノ秘藏弟子ナリ堀田筑前守殿ヲ刺殺サレシ前ニ語孟子ノ義ノ書写本ヲ封ノ筐中ニイレヲキテ没後ニ仁斎ヘモトサレタルトナリ君修語レリ

一大坂鐘ノ銘ノ事ハ云ニ及フフナルヘキヲ云立テニナリタルハ御當家ノ恥トモヘキナリト君修云リ

一君修云今ノ学者三代聖人ノ道トロクセニ云ヘトモ夏殷ニ代ハ書物ナケレハ詳ナラスヽ只周ノ道ヲトラヘ物ニノ論スルナリ殷ノ人ノ風俗ハ甚ツヨクテ中ニ周ニ服セス故周公礼樂ヲ立タマヘル上ニモ其弊ヲタメラル、心ナルヘキ依然ハ学者ノメツタニ物マハラカニ文物ヲ立ナハ武備立ルニテ乱ノマヽ子ノヘニ心得アルヘキ也

一本多中務大輔殿忠良ハ世ニ賢人トヲレタル人ナリ春臺ノ
方ニテ世院ノ會アリシ時本多殿御老中ニナリタマヘトモ
何ノ功モナシアナタガ老中ナラハイカハカリヨカラント人々
思タルニ存シル詞ノ用ヘシト時春臺ニ論語荀悲矣
之人ノ御詞万世ノカヽミナルヿ大言ヒラカレタルトナリ
一子売ニ井伊ノ家ハ江戸ノ風俗ヲ見習ハセマシキ為ニ
交ヲカタク禁ス窓ノナキモ江戸ノ風俗ヲ見習セマシキ
一二月二十九日東禅寺行香ノ時笑ヽヽヽ至ル武候ノ
賜リタリ
一閏二月十三日君修来訪ス曰主碍碣ノ中君憂ノ一段石ニホ
ルヿヲ除キ沉晦候命ト云マテヲ
一子元自讃ノ歌ニ雖度[illegible]
[illegible]
月の歌よこれ子元辛丑の元年なり
秋[illegible]海東の月を見るの
[illegible]

一榊原康政ノ俳姫路ニ有リテ春臺翁見ラレタルニ康
政七切德於天下其中殉死ヲマメラレタルヿアリト
ヤリ羅山ノ春齊ノ文集ニアルヘキヤリ見タキヿ
ト君修語レリ

一稚虎一声山月高ノ詩ハ王荆公好テ吟セラル、諸ノ作者
ハ元紫芝ヤリ其事代醉ノ中ニアリト覚ユト君修語レリ

一仁齊門人中嶌原造名ハ正辰モト松平紀伊守殿ノ医者ノ
子也今大津ニアリテ仁齊学ヲ講スルトヤリ

一秋仁傑ナトノ事子允ハ決メ允ノヿヤリ早ク諫テ自分
ノリツハラシタキトニハ名岡斗リニテ真実ノ忠ニアラス
陳平周勃秋仁傑カ如キコソ本ノ忠臣ナラメトニ論ア
リト君修ニハレリ

一士寧ナトノ文ハ能モアラスノ子ハミタルト覚ユ譬ハシウトメ
ニイナラレタル孺人ノテヾミタルノセノツキマウノ文ヤリ
南郭ノカマヘノヨキヿトシテ又自ラシタリタルマウヤリ
君修屢子式ニニノ南郭春臺両人シテ已カ物スキヲ立

テ戈ヲ束縛シタマフト覚ユ但来ハ門人ノ文ニ銘々長
ノ通ニセラルヽニ君子ハシカラストヽ
一産語ハ春臺ノ文ノ中ニテ飛サリタル出来ノ文ナリト思
ハルト君修ノ説ナリ
一春駒集ト云狂歌集ニ南郭ノ序アリ初稿ヨリ前ノ文
ト思ハルヽト君修語レリ
一酒井石見守殿ノ世子山城守殿ヨリ詩ヲ作リタマフ近
来諸侯方ノ諸一カマヘニテヨク似タリ詩ハ志ヲ云トニハ
アハヌ同シヨウニヨク似タル処ウレシカラスソレユヘ志ヲ云
ト云ヲ不足ナリタトヘハ繪ニ書ケル女ヲ見テ心ヲ動カス
カ如シト云評判ニ似タル也ト君修云ヘリ
一平安ノ人龍石二門名ハ公美字ハ君玉蘆集ヲ作リテ序ヲ
君修ニタノミタレハ辞シタル上也茨川来女荀子ノ序ヲ作
レル清絢字君錦又條士明（俗名三郎）又ハ木君妃是等ハ平安ノ
才子ナルニヤ
一但来書物ヲ引出シテ見テモノカヽルヽナシ皆ソラ覚ナ

リト君修ノ話也禎云物部連ノ撥文事實ヲカヒタルト
覚ユト君修モ日本記ト引合テ見ルニ成ホトタカイタルト
云ヘリ

一君修云忙丘安右エ門美仲ノ俗称ナリ美仲春臺集テ
議リテアレハ口上書請取手形ナリ文トハ李夢陽已
上ヲ云ト大言セルトナリ

一君修云春臺ノ易白要略ハ断易天機ノ筮法ナリ
如何アルヘキヤト云ヘリ

一節義ノ事ヲ論スルニ禎云匝手ノ時ノ士ハ格別ニ義アリ
シト段ニ證ヲ引ク君修云イカニモ今川氏真ノ没落北
条氏直ノ高野ニ入リ死アレメル時ナト一人モ殉ナシ中華
人ニハカマウノ所ニテ多死シテ倍スル人アリト覚ユルト也

一君修云春秋ノ中ニ黄河ノ患ノ見ヘサルハ如何遠キ故カ
トナリ

一礼記ヲ鄭玄馬融ナトカ取アツメタルト云フ二十一史ノ中ノソ
レヤランノ経籍志ニアリタルトルカト覚ユト君修云ヘリ

一ヲトキハウ子ハ至テ好書ナリト君修ノ評ナリ五朝小説ノ中ニ味シヲヨク染カヘシタルモノ也ト君修ノ友人小説ヨク讀ム人ノ云ルナリ

一君修モ子トモヲ教ヘ云ルニハ先ツ平家物語太平記ナトヲ讀スルヿ可然也トヒヘリ

一君修ニ千鱗擬古ノ中ニ岗ヘ又ハ易水歌接下哥ナトニ似スルヿ埒モナキヿナルヘシ

一今ノ林氏部女捕ノ父大学頭信篤赤穂ノ四十六士切腹仰付ラレシ時ノ作リヲ曾聞壮士無還去易水風寒連袂行炭啞変形追豫讓蒲歌屑涙挽田横精微石碎死何悔義気氷清生大壯四十六人存狀又上天猶未察思誠コノ詩ノ御老中列座ノ中ヘ出サレタルハ是如何アルヘシト秋元但馬守殿云シニ時詩ノ作ルヿ禁制ナラハ格別ノヿ也詩文ヲ作ルナラハ實ヲアリスカタニ書ヘキヿニテ此通ノヿト直言セラレタルト其時憲廟ノ上覧ニ入ルトナリ

一君修ニ日本ニ詩話ナシ書タキヿナリトニヘリ

一百人首ノ評判禎存念ヲニ君修ニ定家ノ詞ニ家ノ詞隆

ハ歌ヨミ我ハ歌作リナトニ云シハ尤ナルヘキトナリ

一春臺ハ會読ニ必下見ヲシテ下見ノナキ所ハ會モセラレ

ストナリ

一明通ハ誠ノ賢者ナリト覚ユ司馬温公程伊川王制ヲ

ト人ヲ人トモ思ハス衆中心服格別ノヿトナリ君修ノ

読ナリ

一左傳國語ナトニ先王典刑ヲニカハル改ルノ又改メスカヨキ

サトニ沙汰ハツユチリホトモナシ是聖人ノ定ハ動カサレヌ

トニ丁極リテアリタル故ナルヘシ後世ニ大テイ吾職分ノヿハ

建議スルトモ外ノヿハ論セス宋朝ヨリ理窟ヨケレハ開祖ノ

君ノ定メタマフヿヲ改ノ改メストニ論モ起レルニヤト覚ユ

ト君修ノ説ナリ

一禎ニ晉ノ公子信陵君ノ朱亥ヲノ秦郿ヲ殺サシメテ

其軍兵ヲ吾手ニ入タルヿナト日本ノ武士ノ風ニテハアハヌ

ナリト君修ニイカニモ其通リナリ祖又云漢ノ高祖ト
楚ノ項羽ト會セシトキ高祖間道ヨリ逃クルヿ其時光
増ハ如何シテヲリクルヤ気ノツカヌハ合点ノユカヌヿシト
君修云皆後世ヨリ見レハ甚怪シキヿモコレハ定メテ今ノ世ニモ
アルヿニテシノヒナソヲ用ヒサマヽシタルヿアレモ只其計ハ
秘メ傳ラス正面ハカリ書ツケヌレハ不害ニ見ユルヿモアリ
信俊君ヘモ高祖ヘモ内通ノ人アリクルナラン何トソ人ノ
知ラヌイリワリ有リタラントナリ